
Rewriteの世界でヴァンガード

フグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Rewriteの世界でヴァンガード

【Nコード】

N2568Z

【作者名】

フグ

【あらすじ】

作者紹介です。

皆さん始めまして今回出展しましたフグです見ての通り駄作ですが、こんな作品でも暇ならしゃあないから見てやろうくらいで見ていただければ嬉しい限りです。

先に言っておきますこんなのRewriteじゃ無いってところは多々有るのでご注意を。

それでも良いという人は見てください。

ヴァンガード前編（前書き）

このグダグダ感たまんねー

ヴァンガード前編

吉野「もう我慢ならねー、天王寺俺とデュエルしろ。」

そう言うて来たのはクラスメートであり不良の吉野晴彦だ。

瑚太郎「悪いが吉野俺はデュエルはしないがファイトなら受けて立つぜ。」

そして、こんな風に返した軽い男天王寺瑚太郎こそおれである。

吉野「よし俺とヴァンガードファイトで勝負だ。」

互いにデッキをシャッフルして、カードを5枚ドロースる。

吉野「俺はノーチェンジだ。」

瑚太郎「俺はカードを2枚戻しシャッフルして2枚ドロース」

お互い入れ替えが終わったからファイト開始だ！！

吉、瑚「スタンドザヴァンガード。」

吉野「バトルライザー。」

瑚太郎「コンロー。」

ターン1吉野手札5Vバトルライザー瑚太郎手札5Vコンロー

吉野「先攻は貰うぜ、ドロース！シャウトに俺様ライド、バトルライザーは左後方にコールこれでターンエンドだ。」

ターン2吉野手札5Vシャウト左後方ライザー瑚太郎手札5Vコンロー

瑚太郎「俺のターン、ドロースゴジョーにライドコンローV後方にコールさらにバーを左前方にコール

アタックフェイズバーでVにアタックだ。」

吉野「ノーガードトリガーチェックラウンドガールパワー+5000はシャウトにヒールはしないな」

瑚太郎「コンローをブーストしたゴジョーでアタック。」

吉野「くそ、ノーガードだ！」

瑚太郎「トリガーチェックターダパワー+5000と+1をゴジョーに」

吉野「トリガーチェック1枚目アシュラカイザー、2枚目スリーミ
ニツツパワー+5000をシャウトに

そしてドローするぜ!!」

瑚太朗「ドロートリガーかまあ仕方ないなターン終了だ。」

前半だけでダメージ3点付いたここからどうなるかは後編に続く
!!

ヴァンガード前編（後書き）

今回は時間が無かったので前編と言う形にしました。基本的には全部書き終わりますのでよろしくお願いします。

ヴァンガード後編？（前書き）

サブタイトル通りヴァンガードの続きとは限りません。

ヴァンガード後編？

前編の続きだが、こんな展開になれば良かった・・・
実質はこうだ

吉野「天王寺俺とデュエルしろ！！」

瑚太朗「悪いが吉野俺はカードゲームはしない。」

本当はバリバリしている人間なんだよなあ・・・

吉野「決闘と意味で使った！」

本気の目だった。

見た目通りの一匹狼だが、普段はクールだ。

瑚太朗「残念だよ吉野親友同士で、争うことになるなんてな」

吉野「てめえと親友になったつもりはねえ、そいつを今日体で理解させてやる。」

瑚太朗「どうやら本気みたいだな、分かった受けて立つ」

吉野「放課後、裏庭に来い、そこでジ・エンドくれてやる。」

瑚太朗「ああ、だがひとつだけ言っておく。」

吉野の波動に当てられた俺は二ヒルな気分になって言う。

吉野「なんだ」

瑚太朗「俺はそう簡単に終わる男じゃない」

吉野「上等だ、そんなてめえの吼え面見物だな。放課後だ忘れるんじゃないぞ」

瑚太朗「ああ、理解^{わか}っている。」

その約束を忘れて俺はあっさり帰宅した。

ヴァンガード後編？（後書き）

ヴァンガード？なんてどこにも出てないじゃん。
まあ今日はこんな感じで切り上げます。

小鳥現れる前編（前書き）

今回はちゃんとヴァンガードをします。オリカが出ます。

小鳥のデッキはグレートネイチャーです。

トリガーは全部4枚ずつです。

小鳥現れる前編

そして土曜日の夜に吉野との約束を思い出した。月曜日に謝れば良いだろうと思ってその日は寝た。

そんな事をしていたから夜に召集が掛かった。

しかし今までにも何度も召集は掛かっている。

理香子「小鳥さんが、森から帰らないので、連れ戻してきて下さい。」

瑚太郎「わかりました。」

そう言われて、俺は森にやって来た。

小鳥「ZZZ」

しばらく行くと小鳥は寝ていた。

瑚太郎（無防備だな）

小鳥を起こすために、体をゆすつてみるが、小鳥は起きる気配が全く無い。

瑚太郎（仕方が無い、奥の手を使うか）

俺はポケットから、小銭を取り出し、小鳥の掌に落としていった。すると、小鳥が嬉しそうな顔をしながら、その場で起き上がった。

小鳥はねばけながら挨拶をしてきた。

小鳥「あつ瑚太郎君おはよう」

俺は苦笑をした。

小鳥「夜だよ！暗いよ！」

と小鳥は周りを見ながら言ってきた。

そして、自分の周りにあるカードを片付け出した。

瑚太郎「今日もヴァンガードのデッキを考えていたのか？」

と俺が言つと、

小鳥「そうだよ」

小鳥「そうだ、一回だけ、ファイトしない？」

瑚太郎「別に良いが大丈夫なのか？」

小鳥「うん問題ないよ」

瑚太朗「よしわかった。」

お互いに最初に5枚ドロする。

小鳥「私はカードを1枚戻すよ」

瑚太朗「俺は3枚戻す」

そしてお互いカードを入れ替える。

瑚小「スタンドアップザヴァンガード」

小鳥「ハイドッグ」

瑚太朗「アンバードラゴン・ドーン」

ターン1小鳥手札5 瑚太朗手札5

小鳥「私の先攻、シルバールフにライドハイドッグのスキルで左下にCしてターン終了だよ。」

ターン2小鳥手札5 瑚太朗手札5

瑚太朗「俺のターンデイルイトにライド、ドーンの効果でダスクを山札から、手札に加える。デイルイトでアタック」

小鳥「ノーガードだよ」

瑚太朗「トリガーチェック、ター トリガーだ+5000と 1をデイルイトに」

小鳥「ダメージチェック1枚目モンキールー2枚目ヒーリングロコン 治トリガーだよダメージを1枚回復するね。」

瑚太朗「ターンエンド」

小鳥現れる前編（後書き）

見てもらって分かる通りキャラのデッキは原作っぽく作っています。

小鳥現れる後編（前書き）

小鳥のデッキはさらに強くしていく予定です。

小鳥現れる後編

ターン3小鳥手札5枚D1Vシルバーウルフ左後方ハイドッグ瑚太朗手札5枚Vデイルイト

小鳥「私のターンドローパーンダ（ジオグラフィアント）にライド、ハイドッグのスキル発動このカードをソウルに入れて自分のグレートネイチャーのパワー+3000する。パンダのパワー+3000にするよ。そして手札のちびもすのスキルを発動。このカードは自分のVにパワー13000以上のグレートネイチャーのユニットがいる時スペリオルライドが出来るんだよ。」

ちびもすパワー11000

（V/R）Rに自分のグレートネイチャーがない時パワー-2000。

（V）このカードがグレートネイチャーにブーストされたバトルのときこのカードのパワー+3000する。

瑚太朗「常時パワー14000と考えたほうが良いつて事だな」

小鳥「うんそうだよ！まだ行くよ、ガーディングピーグを左前方にCさらにシルバーウルフを左後方にCするよ。」

小鳥手札2枚D1Vちびもす左前方ガーディングピーグ左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札6枚Vデイルイト

小鳥「バトルシルバーウルフのブーストでガーディアンピーグでデイルイトにアタック。」

パワー16000

瑚太朗「ターでガード。」

小鳥「ちびもすでデイルイトにアタック。」

パワー11000

瑚太朗「そこはノーガードだ」

小鳥「トリガーチェック1枚目プレゼントコアラ引トリガーだよ、

パワー+5000はガーディングピーグにそしてカードを1枚ドロ
ーするよ、2枚目ハイジャンプタイガー醒トリガーパワー+500
0をガーディングピーグにしてスタンドさせるよ。」

瑚太朗「ダメージチェックバーだ。」

小鳥「ガーディングピーグでアタック。」

パワー18000

瑚太朗「ノーガードダメージチェックガトリングクロー引トリガー
だ、カードを1枚ドロースる。」

小鳥「私のターンは終了だよ。」

ターン4

小鳥手札5枚D1Vちびもす左前方ガーディングピーグ左後方シ
ルバーウルフ

瑚太朗手札7枚D2Vデイルイト

瑚太朗「俺のターンスタンドアンドドロダスクにライドV後方に
デイルイトをCデイルイトのスキル発動オーバーロードを捨ててイ
クリプスをデッキからサーチする。左前方にネハーレンをC左後方
にエルモをCさらにバーサークを右前方にCスキルでCB2でガー
ディングピーグを退却させる。右後方にバーをC。」

小鳥手札5枚D1Vちびもす左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札2枚D2VダスクV後方デイルイト左前方ネハーレン
左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

瑚太朗「デイルイトでブーストしたダスクでちびもすにアタック。」

パワー18000

小鳥「ノーガード。」

瑚太朗「トリガーチェックバリイ。」

小鳥「ダメージチェックパンダ。」

瑚太朗「エルモでブーストしたネハーレンでちびもすにアタック。」

パワー16000

小鳥「ハイジャンプタイガーでガード。」

瑚太朗「バーでブーストしたバーサークでちびもすにアタック。」

パワー17000

小鳥「ノーガードダメージチェックガーディアンコング完全ガードが落ちちゃったよ。」

瑚太朗「ターンエンド。」

ターン5

小鳥手札4枚D3Vちびもす左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札3枚D2VダスクV後方デイルイト左前方ネハーレン左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

小鳥「わたしのターンスタンドアンドローライドスキップV後方にソニックバードをC左前方にパンダをC右前方にモンキールーをC。」

ソニックバードパワー7000

(V/R)CB1このカードのパワーを+1000する。

小鳥「バトルモンキールーでネハーレンにアタック。」

パワー10000

瑚太朗「バーサークでインターセプト。」

小鳥「シルバーウルフでブーストしたパンダでネハーレンにアタック。」

パワー18000

瑚太朗「ゲンジョウでガード。」

小鳥「ソニックバードでブーストしたちびもすでダスクにアタック。」

パワー21000

瑚太朗「ノーガード。」

小鳥「トリガーチェック1枚目ガーディアンコング2枚目エレファントアンカー トリガー +1とパワー+5000をちびもすに。」

瑚太朗「ダメージチェック1枚目ゲンジョウ2枚目イクリップス。ここに来ての空ヒールは痛い」

小鳥「ターン終了だよ。」

ターン6

小鳥手札4枚D3VちびもすV後方ソニックバード左前方パンダ
左後方シルバーウルフ右前方モンキールー

瑚太朗手札2枚D4VダスクV後方デイルイト左前方ネハーレン
左後方エルモ右後方バー

瑚太朗「俺のターンスタンドアンドドロイクリプスにライド右前
方にラーヴアームをCバトルバーでブーストしたラーヴアーム
でちびもすにアタック。」

パワー20000

小鳥「エレファントアンカーでガード。」

瑚太朗「デイルイトでブーストしたイクリプスでちびもすにアタッ
ク。」

パワー17000

小鳥「そこはノーガードでいいよ。」

瑚太朗「トリガーチェック1枚目ター +1をイクリプスにパワー
+5000をネハーレンに2枚目ドラゴキッド +1をイクリプス
にパワー+5000をネハーレンに。」

小鳥「このタイミングで！！なの？ダメージチェック1枚目ヒ
ーリングロコンこのタイミングで来たって意味無いよ！一応パワー
+5000をちびもすに2枚目シルバーウルフ3枚目エレファント
アンカー私の負けだよ。」

WINNER瑚太朗

瑚太朗「ファイトが終わったからそろそろ帰るか？」

小鳥「・・・うんそうだね」

瑚太朗（よっぽど悔しかったのだろうな）

そして22時に帰宅した。小鳥は理香子さんに何も怒られずにそ
の日は終わった。しかし俺たちが帰った後森ではある組織とある組
織が対立していた事に俺はまだ知らなかった。

小鳥現れる後編（後書き）

今回はオリカが目立ったと思われます。

後はグレートネイチャーのアイコンが出たらそっちにしますの
でよろしくお願いします。

デッキリシピ（前書き）

これは悪魔でも作者の妄想にすぎません。

デッキレシビ

小鳥のデッキレシビ

F V

ハイドッグ

グレード1

シルバーウルフ4

ソニックバード3

ガーディアンコング3

????3

グレード2

パンダ4

ガーディングピーグ2

????3

????3

グレード3

ちびもす4

モンキールー2

????2

トリガー

ジャンピングタイガー醒4

エレファントアンカー4

プレゼントコアラ引4

ヒーリンググロコン治4

瑚太郎のデッキレシビ

F V

Aドーン

グレード1

A デイライト4

バー 4
バリイ 4
ゴジョー 1
エルモ 1
グレード 2
Aダスク 2
ネハーレン 4
ラーヴァアーム 1
バーサーク 3
ぐれーど 3
イクリプス 2
オーバーロード 4
デュアルアクス 2
グレード 0
コンロー
トリガー
ガトリングクロー引 4
ター 4
ドラゴキッド 4
ゲンジョウ 4

デッサンレシピ（後書き）

???は小鳥ルートの話で出てきます。

ハチャメチャ転校生前編（前書き）

更新して6日もたっているよ。

ハチャメチャ転校生前編

小鳥と別れた帰り道突然気配のような者を感じてふっと後ろを向いた、だが後ろには何も無かった。

家に帰り床に就いた俺だったが途中で腕を握られているような感触がして目が覚めた。

腕には手形が付いていた。それを見た俺は恐怖のあまり気を失った。

朝。

瑚太郎^{あれ……}

昨日何かあったつけ。

都合の悪いことは忘れるに限る。それより今日の事だ。

瑚太郎（小鳥が学校に来ると言っていたな……）

朝食を食べて小鳥にモーニングコールをした

瑚太郎「小鳥か？そろそろ学校に行く時間なんだけど」

小鳥「おわーっ！」

それだけで状況を理解した。

瑚太郎「小鳥まさかまた！」

小鳥「うわーっ！」

小鳥「今起きちゃったよ。」

瑚太郎「やっぱり……」

小鳥「どうしよう。」

瑚太郎「ちゃっちゃと準備して出てこれないか、5分くらい待つぞ。」

小鳥「クオリティ低すぎるから30分はかかるよ……」

久しぶりに一緒に通学出来ると思ったらこれだ。

瑚太郎「分かった今日は先に行くわ。」

小鳥「すまないねえ」

瑚太郎「一応確認するけど、体調わるいとか。」

小鳥「うんにゃ、気分は良いのだけど、爆睡しちまいたい。」

瑚太朗「分かった。んじゃまた後でな。」

携帯を切りため息をついた。

ちよつと遅れ気味だ。早足で学校行こう。

瑚太朗（やつと付いた。）

瑚太朗（なんだ・・・？）

全員の目が俺に向いていた。

瑚太朗「・・・おはようさん」

室内の緊張が、ふつと緩んだ。

聞いた話によると今日転校生が来るらしい。

そんな中殺気を駄々漏らしている奴がいた。

吉野「・・・」

そうヨツシーノこと吉野である。

吉野「つち、ぬけぬけと」

吉野「野郎に俺のデッドエンド・ナックル必ず」

しまいにはそんな怖いことを言い出したよ。

担任「はい、吉野君。HRですよ。座りましょうね。」

吉野「つち、後で覚えてろ。」

担任「今日は転校生が来る予定でしたが、何故かきませんでした」

その言葉に、教室全体が、ずるっとこけた。

瑚太朗（どういう、ことだ？）

本当に変な、話だ。

1時間目が、始まって半分くらいたったとき、

？「んしょ、んしょ」

とドアを開けながら入ってくる人が、いた。

侵入者はよつんばいで入ってきた。

？「んしょ、んしょ」

鞆を咥えて、列の間を通って行く。

教師「神戸はすでに欠席扱いだから、普通に座りなさい。」

小鳥「・・・うつぷす！」

ばつが悪そうに席に着く

小鳥「すみません、遅れました。」

授業終了後、

吉野「てめえ、天王寺よくも週末は」

小鳥「いやー、まいっちゃったよホント、見つかるとはー！見つかるとはー！教師侮り難しだよ。せつかく苦勞して進入したのにねえ、悪いことは出来んもんだねえ」

小鳥「30センチの隙間をお尻がひっかからなくてぐぐり抜けた時は、正直・・・勝った！」

小鳥「って思ったもんだけど・・・」

昼休み

小鳥に一緒に昼を食べようといってみる。すると。

小鳥「良いけど、お弁当持ってきた？」

そんな事を言われた、そう俺は弁当は持参してない・・・

瑚太郎「弁当買いに行ってくら」

小鳥「行つてら」

いつも一人な俺、

買い弁の帰り道、

？「きゃー」

ふと頭上で音がする。

もう一度、上を見上げようとした瞬間、

？「わあああーっ!？」

ハチャメチャ転校生前編（後書き）

知っている人は上の人が、誰なのかご存知でしょう。
知らない人は、次話を楽しみにしておいてください。

ハチャメチャ転校生中編（前書き）

今回は最後の叫び声のキャラが登場だ！

ハチャメチャ転校生中編

がさがさあー

瑚太郎「うお、なんだなんだ。」

？「いったたたた」

女の子が天から降ってきた・・・

瑚太郎「おい、だ、大丈夫か？」

？「あっ！」

わたわたと、体を動かす・・・

女生徒「大丈夫じゃないです、降りられません・・・」

瑚太郎「怪我は」

女生徒「枝で擦り切れて、あちこち痛いです。」

ともあれ、状況を見直そう。

瑚太郎「・・・」

落ちるか？普通

瑚太郎「なんだって、またこんな？」

女生徒「落ちたんです」

やっぱり、落ちたのか

瑚太郎「登って手え貸してやるから、ちょっと待つてな」

女生徒「あっ！」

瑚太郎「ん！どうした？」

女生徒「パンツ見たら、起こりますよ！」

こんな状況でよくそんな事を言えるなあ

瑚太郎「別に、見るつもりも無い。」

女生徒「こっち来るなら、絶対見ないでください！」

瑚太郎「こっち見ないでくれって言われても、なんか登るとき上見

たらアウトじゃねえ？という感じだが。」

女生徒「それでも、見ないでください！」

瑚太郎「じゃあ、助けなくて良いか？」

女生徒「駄目です、助けてください！降りられませんか。」

これは、かなりの難題だ！

ためにちよつと角度を変えてみる。

・・・あつやべ、ちよつとピンクが見えた。

瑚太朗「何かで、隠せないか？」

女生徒「動けないから、無理です！」

瑚太朗「じゃあつまり、上を見ずに、あんたもほぼ視界に入れずにこの木を登って救出しろと？」

女生徒「です！」

そんなこと出来る奴がいるなら見てみたいぞ

瑚太朗「無理！」

瑚太朗「仕方ないから、俺は何も見えていないことにして通り過ぎることにするよ・・・」

そして、手をひらひらさせて、俺は背をむけ歩き出す。

女生徒「ああ、なんですかそれ、冷たすぎませんか？」

瑚太朗「だって、無理なんだからしゃーないだろ？」

女生徒「それでも、おとこですか？」

瑚太朗「それが、助けてもらおうって人の態度か？」

瑚太朗「まあ、俺は何も見えてないから、通り過ぎらしてもらっよ」

瑚太朗「エロ紳士に見つかって、『グッパン（GOOD PANTS！）』とか言いながら、写メ撮影されるなど、俺に見られるより、余程悪い状況を想像しながら待ち続けているがいいさ」

女生徒「そ、そんなのいやです」

瑚太朗「おっと、何も見てないのに独りごと言っちゃった。さて、モノマネでもしながら歩きましょう。」

瑚太朗「・・・あの、ね、戦闘員が、ネ・・・お、ヒーロー！この組織を、ぶっ壊せ！！感動した！！」

女生徒「ぷすー！」

自分でやってなんだがこれぜんぜん面白くないぞ、これで笑うとなると・・・

女生徒「いや、そんなことより、男の子なら、助けるべきです!」

瑚太朗「見えても良い?」

女生徒「だっ駄目です!」

瑚太朗「じゃあ、無理!」

女生徒「わっ、分かりましたから」

瑚太朗「よつと!」

無事救出を終わる。

女生徒「はぁ、助かりました」

女生徒「実は、私こう見えて転校生なのです。」

どうやら、聞いた話によると、学校の位置が分からなくて、やつ
との思いで見つけたの良いものの、ガードレールに体を預けたら、
ものの見事に落ちてしまったみたいだ・・・

女生徒「うっ、屈辱です!」

瑚太朗「だから、ドンマイ」

これが荷物か?

瑚太朗「これ俺が運んでやるよ」

瑚太朗「よっ!」

なんだこの重さは、この子はこんなもんを持って街を彷徨って
いたのか?

女生徒「あの」

瑚太朗「ちよい待ち!」

女生徒「あのー?」

瑚太朗「なんだい?譲ちゃん」

女生徒「つとめて冷静に振舞おうとしてるのは分かりますが、顔真
っ赤で血管浮いていますよ。」

女生徒「重いのですか?」

瑚太朗「細腕の女の子が持ち上げて、数時間彷徨っていられる程度
の重さのダンボールが重いはずが無いだろう」

女生徒「良いから、持ちますから。」

切れ気味に力を込めると、

（ビリ！）

瑚太朗「あっ」

女生徒「わっ！」

女生徒「わあああああああ！！」

これまた、不運なのか盛大に坂を転がり落ちて行きそして、また、ガードレールを飛び越えておちてしまった。

そんなことをしているうちに、

救急車「ぱーぱーぱーぷ」

と騒がしいサイレンを鳴り響かせて、急行してきた。

そのまま救急車は女生徒を乗せて、病院にいつてしまった。

ハチャメチャ転校生中編（後書き）

よく考えたらこのキャラは小説にしたら長い！！
まあ、気にしないで行きましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2568z/>

Rewriteの世界でヴァンガード

2011年12月21日22時50分発行